

第6学年1組 道徳学習指導案

平成26年10月28日 第3校時

在籍児童数 男子14名 女子14名 計28名

指導者 三芳町立竹間沢小学校

教諭 小池 美枝子

1 主題名 不正を許さない態度 4－(2)

資料名 あなたも同じ…

出典 彩の国の道徳（高学年）「夢に向かって」 埼玉県教育委員会

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目4－(2)は、「だれに対しても差別をすることや偏見を持つことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。」という内容である。これは、民主主義社会の基本的な価値である社会正義の実現に努め、公正・公平に振る舞う児童を育てようとする内容項目である。

公正、公平にするということは、偏ったものの見方や考え方をしないで、「善いことを善い」、「正しいことを正しい」と公平に判断し、誰に対しても分け隔てなく接するとともに、社会的な平等が実現できるように振る舞うことである。この実現のためには、安易に私利私欲に流されず、正義を愛する心や自他の不正を許さない心、人を思いやる深い人間愛を育て、善いことや正しいことを自分で判断し、主体的に行動できるようにすることが重要である。

そこで、児童には、社会正義の実現のために広い視野を持って考え、行動することの大切さに気付かせ、身の回りの出来事から差別をなくし、不正な行為を絶対に許さないという断固たる態度を養っていききたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、お互いのよさを認め合い、助け合いながら活動することができる。友人関係では、特定のグループに固執することなく、男女の仲もよい。しかし、時には自分の考えが正しいとわかっていても、他の人の異なる考えに流されて行動してしまう面もある。また、「正しいか、正しくないか」ではなく、「好きか、嫌いかな」で判断し、自分本位の考えで行動してしまう様子も見られる。

学級の課題に対しては、真摯に受け止め、改善しようとする意欲を持っている。一人一人が自分自身の行動を素直に見つめ直すこともできる。反面、学級全体を見通し、よりよい集団を築くために集団の見方や考え方を変えていこうとする児童は少ない。

そこで、児童には、自分本位の考え方から視野を広げ、誰もが気持ちよく生活できるように、自他の不正や不公平を許さず、力を合わせて差別や偏見のない集団を築く強い意志と自分から行動しようとする意識を高めたい。

本時の学習を通して、身の回りの差別や偏見を自分のこととして捉えさせ、正義を実現するための心の葛藤や正義を貫くことの大切さを十分考えさせ、誰に対しても公正、公平に振る舞う態度を育てたい。

(3) 資料について

主人公の私の学級には、明奈に対するいじめがある。学級のみんなは、いじめの存在を知りつつも、中心的な存在である郁美たちが怖くて、見て見ぬふりをしていた。しかし、私だけは積極的に明奈に声をかけるようにしていた。ところがある日、私がいじめの対象になる。それ以来、私は明奈と接触することをやめてしまう。その後、人目のないところで明奈に声をかけた私は、「あなたも郁美さんたちと同じよ。」と言われ、自分のとってきた行動を見つめ直し、学級に自分の気持ちを発信する。

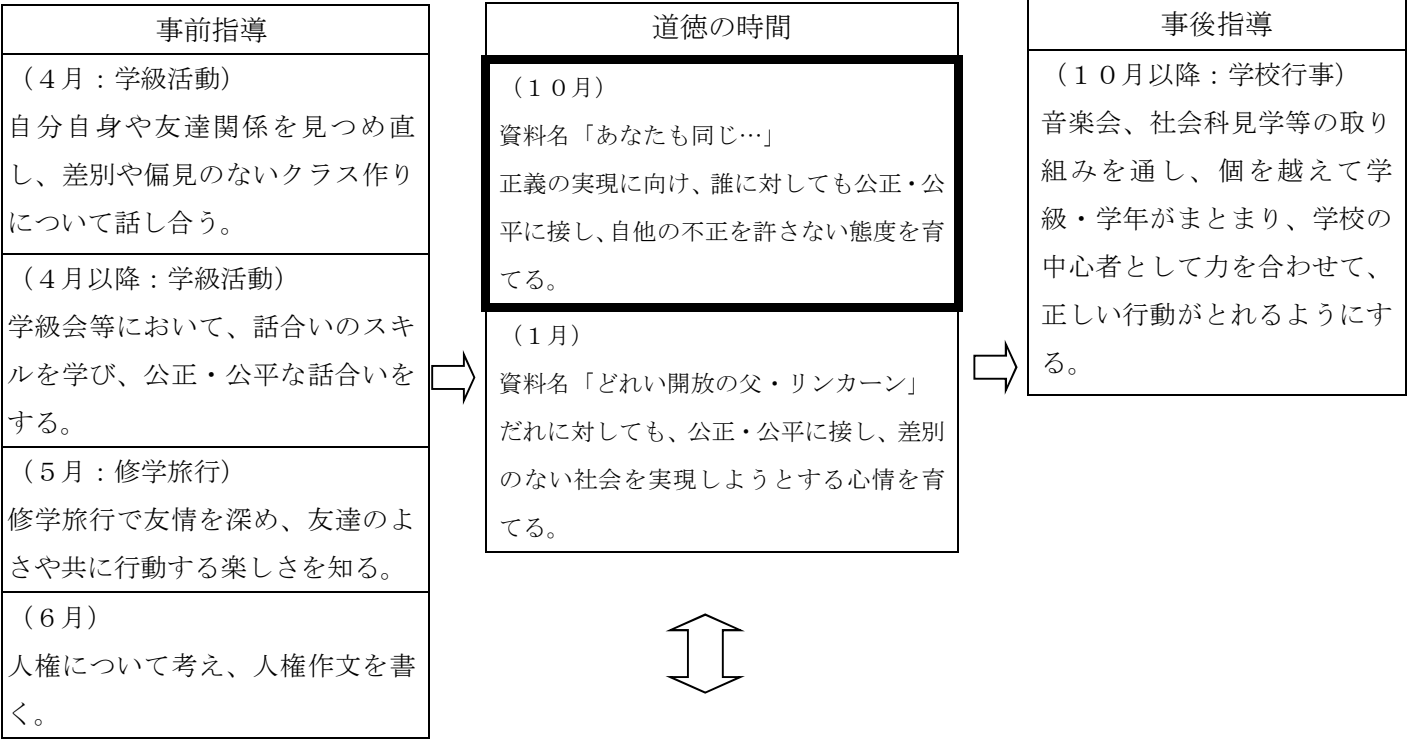
本資料では、いじめを悪と知り、「自分だけは違う」と行動してきた私の気持ちの変化に注目させていく。明奈に声をかけ続けたことで、自分がいじめの対象になったときの私の気持ちに十分に共感させ、良かれと思

って声をかけた明奈に「あなたも同じ…」と言われ、揺れ動く私の気持ちをじっくりと考えさせたい。いじめの対象になるのを避けるために、話しかけなくなった私。悪口を言ったり、物を隠したりもしていない私。できるだけ声をかけるようにしてきた私。「自分だけは違う」と思ってきた私。そんな私に、なぜ明奈は「あなたも同じ…」という言葉を投稿かけたのかを中心に話を進め、黙ってみていることもいじめの加害者と成り得ることに気付かせたい。また、最後に私が、学級にどんな言葉を投げかけたのかを考えさせ、誰に対しても公平・公正な態度で接する態度の実践意欲を高めていきたい。不正を正すことの大切さに気付かせることで、不正を許さない態度を身に付けるというねらいにせまっていく。

3 ねらい

正義の実現に向け、誰に対しても公正・公平に接し、自他の不正を許さない態度を育てる。

4 他の教育活動等との関連



家庭との連携
・保護者会や通信を通して、親同士が、友達関係のアンテナを高くして情報交換に心がけ、気がかりな点があるときは、いつでも学校に知らせてくれるようお願いをしておく。

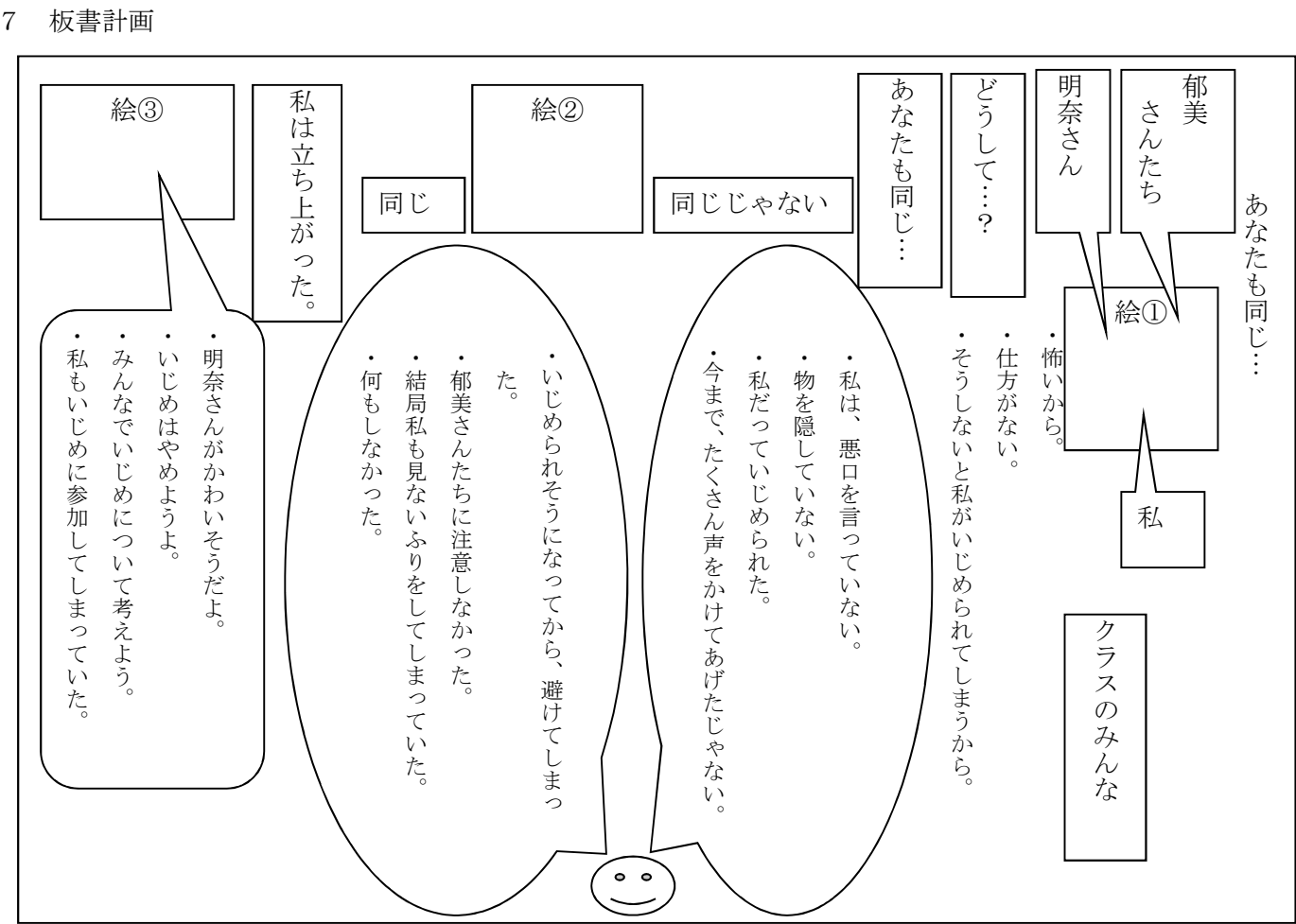
5 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価の観点 (☆)	資料
導入	1 場面絵①を見せ、教室の雰囲気を感じ取らせる。 ○この教室の絵を見て、どう思いますか？	・意地悪な顔の子がいる。 ・一人ぼっちで座っている子がいるよ。 ・なんだか嫌な感じ。	・何となく嫌な雰囲気があることを確認し、資料への関心を高めていく。	絵①

展開	とらえる	2 資料の範読を聞き、話し合う。 ④進んで声をかけたのは、どんな気持ちからでしょう。 (1) どうして、私は明奈のところに行かなくなったのでしょうか。 (2) 「あなたも同じ…」と言われて、私はどんなことを考えたのでしょうか。 ④なぜ、声をかけようと思ったのでしょうか。	・かわいそうだから。 ・いじめはいけないことだから。 ・私はいじめをしたくない。 ・怖いから。 ・仕方がない。 ・そうしないと私がいじめられてしまうから。 ④私はいじめていない。 ④話しかけてあげたのに…。 ④でもな…。 同じではない ・私は、悪口を言っていない。 ・物を隠していない。 ・私だっていじめられた。 ・今まで、たくさん声をかけてあげたじゃない。 同じかも… ・いじめられそうになってから、避けてしまった。 ・郁美さんたちに注意しなかった。 ・結局私も見ないふりをしてしまっていた。 ・何もしなかった。 (3) 一晩考えた私は、クラスのみんなにどのようなことを言ったのでしょうか。 ・明奈さんがかわいそうだよ。 ・いじめはやめようよ。 ・みんなでいじめについて考えよう。 ・私も気づかないうちにいじめに参加してしまっていた。 ・何もしないこともいじめだよ。	・導入での反応をもとに、条件・状況をしっかりと押さえ、それぞれの立場を把握させる。 ・「いじめ」と認識して、正しい行動をとろうとしている主人公に気付かせる。 ・物を隠されてしまった私の気持ちに十分に共感させ、自分を守るために行かなくなってしまったことをしっかりと押さえる。 ・思いがけない言葉を明奈から投げかけられ、頭の中で何度も響いている状況を押さえ、揺れ動く私の気持ちを考えさせる。 ・ワークシートに自分の考えを整理させる。 ・「同じではない」の考えが自分本位であることに気付くことができるような板書を構成する。 ・考えの根拠を話し合うことにより、児童の価値観を引き出すようにする。 ・自他の不正に気付き、それを正すために行動することの気持ちよさを味わえるようにする。 ☆自他の不正を許さず、公平に接していこうとする私の気持ちに気付くことができたか。(発言・表情)	資料 絵② ワークシート 絵③
----	------	--	---	--	---

	見つめる	3 「公正・公平」な態度とは、どんな態度のことなのでしょう。	・差別のないこと。 ・誰から見ても、正しいと言えること。 ・だれもが平等であること ・誰に対しても同じ様に接すること。	・これまでの自分を振り返り、公正・公平な態度の気持ちよさを感じられるようにしていく。 ☆これまでの自分を見つめ、公正・公正な態度で接していこうとする意欲を高めることができたか。（発言・ワークシート・表情）	ワークシート
終末	あたためる	4 教師の説話を聞く。		・自他の不正を許さず、公正・公平に接していこうとする意欲を高められるようにする。	

- 6 評価の観点
- ・自他の不正を許さず、誰に対しても公正・公平に接していこうとする意欲を高めることができたか。
(発言・ワークシート・表情)
 - ・自他の不正を許さず、誰に対しても公正・公平に接することの大切さに気付ける発問の組立てになっていたか。
(発言・表情)



あなたも同じ……

名前（

）

◎明奈さんに、「あなたも郁美さんたちと同じよ。」と言われた私は、どう思ったでしょうか。

同じではない



同じ

◎「公正・公平」な態度とは、どんな態度のことだろう？